

1 学力の実態

○平成27年度 全国学力・学習状況調査(対象小6、中3)

	国語A	国語B	算数A (数学A)	算数B (数学B)	理科
平均正答率	76.6	67.1	64.5	40.6	55.2
全国値との差	1.2	1.3	0.1	-1	2.2

○平成27年度 大分県学力定着状況調査(対象小5、中2)

	国語		算数(数学)		理科		英語(中のみ)	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
偏差値	48.9	47.6	50	49.7	50	50	48	49.2
50との差	-1.1	-2.4		-0.3			-2	-0.8

質問紙調査の特徴 (○成果 ●課題)

- テレビ・ゲームをする生徒が多い。○学校に行くのが楽しい生徒が多い。
- 新聞やニュースを見ていない生徒が多い。
- 総合的学習で自分で課題を立て調べた事を発表する活動が少ない。
- 国語学習への興味・関心が高い生徒の割合が多い。
- 国語の授業で自分の意見をうまく伝えられない生徒の割合が多い。
- 数学への関心が高い。●数学授業がよくわからない生徒割合が多い。
- 理科で観察や実験が好きな生徒の割合が多い。
- 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している生徒の割合が多い。

質問紙調査の特徴 (○成果 ●課題)

- 朝食摂取などの生活習慣は概ね身につけている。
- 規範意識はある程度ある。
- 自分に自信が持てない(自己肯定感が薄い)生徒が多い。
- 話し合い時に意見交換等ができていない。
- 自分の気持ちをわかってくれる友達がいる。
- 自分の思いをうまく伝えられない、他の人との関係をうまくつづけない等、コミュニケーション能力の低さがみられる。

○1学期の学力定着状況

①平成27年度全国学力・学習状況調査において、本校(3年生)の結果を5区分(教科毎知識・活用別)で見ると、全国平均を4区分で上回り、県平均に対しては全区分が上回った。当該学年の昨年(2年生)の県学力定着状況調査結果と比較すると、県平均を上回る区分が3区分増えており、学力が大きく向上したと言える。②平成27年度県学力定着状況調査において、本校(2年生)の結果を8区分で見ると、市平均を4区分(数活、理知・活、英活)で若干上回ったものの、県平均に対しては全区分が下回った。偏差値で見ても3区分(数知、理知・活)は50に達したものの、他区分は50を下回った。当該学年の昨年(1年生)の市学力調査結果と比較すると、市内においては改善した。③1学期の定期テスト結果をみると、下位層の割合が全校で11%であった。
今後の課題は、基礎・基本の定着、国語・英語を始めとする活用力の向上、下位層の底上げと考える。全体対策のみならず、学年特性に応じた対策が必要である。特に2年を中心に授業規律の徹底と学力保障が急務である。組織的に更なる改善に取り組む。

2 第1回自己評価(重点目標の取組に対して)

○重点目標等

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
中す等の校き時知識代・習技能	【授業規律の定着】B0 ○生徒に「授業に集中する態度」を身につけさせる。 ・「学級の集中雰囲気」を60%、「落ち着いて学習」を85%以上にする。 【基礎・基本の定着】B1 ○生徒に「基礎学力」を身につけさせる。 ・定期テストで下位層の生徒の割合を1割程度にする。(目標:下位層3割減、上位層3割増) ・次年度の全国学力調査で平均以下の項目を減少させる。 ・「家庭学習」を85%以上にする。	○授業態度の指導を徹底し、授業規律の確保に取り組む。(「私語がない」、「離席がない」、「時間着席」、「忘れ物がない」等)	○授業を予定通りに進める。迅速な組織対応により、授業ストップを生じさせない。
		○わかる授業をめざし、「学び合い」、「めあてまとめ」や「習熟・少人数・TT(一部)」等を実践するとともに、授業改善に取り組む。	○全教職員が参加する互見授業を毎月実施する。校長、教務・研究主任他を中心に授業観察。 ○校内研究会(授業改善方策を全員で確認)を学期に1回程度実施する。
		○学びタイムを設定し、基礎・基本の定着を図る。	○学びタイムを毎日清掃の後、全員で10分間実施する。
		○昨年度の反省(一部下位層拡大)を踏まえ、テスト毎に分析・評価を組織的に行う。	○定期テスト実施後に学年、教務主任、研究主任、管理職で下位層等の状況を共有し改善策を検討・実施する
		○家庭学習の時間を2時間確保する。	○担任が、毎日、生徒の自学ノートをチェックし、指導する。

○自己評価

取組指標の実施状況(○成果、●課題)	取組評価	重点的取組・取組指標の改善
○授業ストップさせない取組。●授業規律徹底。 ○各施策(少人数授業、ノチャイム休止、「コ」の字休止等)	A	授業ストップゼロを維持しつつ、更なる授業への集中度改善に取り組む。
○互見授業計画立案。●互見授業実施。 ○学力向上支援教員の公開授業。○授業観察。 ○学力向上支援教員の公開授業実施。 ○授業改善のための校内研究会等実施。 ○学び合い、少人数指導等を実践。 ●更なる授業改善、単元を貫く課題づくり等。	B	毎月の互見授業実施とレビューによる評価・改善を今後実施する。教科の観点では、教科部会・事例等のノウハウを活用予定。わかる授業をめざして授業改善(単元を貫く課題づくり等)に継続取り組む。
○学びタイムを毎日実施。 ○学びタイム設定による学習習慣づくり。	A	学習習慣づくりへの「学びタイム」の取組を継続実施する。今後は、内容の充実を検討する。
○各テスト下位層の組織的分析。 ●下位層減少に向けての対策実施。	B	各テスト実施後の下位層等の分析を継続実施するとともに、下位層減少に向けての改善策を検討・実施する。
○自学ノートによる家庭学習の習慣づくり ○自学ノートチェックによる指導。	A	担任が毎日、生徒の自学ノートをチェックし指導する運用を継続実施する。
○各チームの改善活動。 学力向上(授業規律、基礎・基本の定着)に向けた各チーム(①学校経営、②教務チーム、③研究チーム、④1学年チーム、⑤2学年チーム、⑥3学年チーム、⑦生徒指導チーム)の取組み実施。	A	全体取組に加え、各チームの取組を継続実施する。(今後も学年特性を考慮し全体・各チームの2階層で改善サイクルを回していく。)

3 次学期に向けて、重点的取組を支える取組や共通理解したこと

今後、以下の取組が必要と考える。

(1)わかる授業

- ①1時間完結型の授業：学習の「めあて」と「まとめ」を基本とした授業を行う。
- ②学び合いのある授業：一人ひとりの学習を保障する授業づくりを行う。
- ③課題解決を取り入れた授業：生徒が主体的に課題を解決していく単元指導計画づくりを行う。
- ④授業改善：互見授業、授業観察(管理職・研究・学力向上他)、校内研究会(全体・教科)を通して授業改善に繋げる。
- ⑤その他：少人数指導、TT、授業外でのALTによる外国語活動など

(2)基礎・基本の定着

- ①基礎基本の学力定着：習熟の遅い生徒・グループへの指導、「質問教室」、学習習慣づくりへの「学びタイム」に取り組む。
- ②下位層へのアプローチ：テスト毎に分析・評価を組織的に行う。特に下位層については、バイネームで対策を検討し、質問教室に行くよう指導、教育相談時に学習への意識づけ等を実施する。

(3)各チームの改善活動

- 各チーム(①学校経営、②教務チーム、③研究チーム、④1学年チーム、⑤2学年チーム、⑥3学年チーム、⑦生徒指導チーム)毎に、学力向上(授業規律の定着、基礎・基本の定着)に向けて検証時期を明確にし改善サイクルを回していく。(学年(学級)特性に合った施策実施)
- (4)授業推進：計画通りに授業を進めるための取組(ルールの指導、授業妨害や教室を飛び出す生徒には組織的対応)を実施する。
 - (5)自発的な学習態度の育成：学校教育目標、成長するための行動指針を生徒に意識づけ、自ら学習に全力で取り組むようにする。
 - (6)保護者を巻き込んだ取組(「早寝・早起き・朝ごはん」徹底、学習状況確認、目標・進路・夢等の会話促進、親子学年集会、しつけ等)
 - (7)ICT活用による学力向上(今後の検討課題)：ICT(タブレット他)活用により、生徒たちの理解度をデジタルに把握し、的を得た改善を図る。教室を飛び出すような生徒たちに、ICTを使った授業は有効であると考え。そのような生徒たちにICTで興味を持たせながら反復練習で基礎基本の学力定着を図りたい。